

科目 4 そば打ちの身体学・心理学・論語

優秀賞 ( 2 )

受検番号

氏名

Q1. そば打ちにおいては、身体になるべく負担をかけず、効率の良い動作を行う必要があります。そのために大切な要素について、体重の利用、台の高さ、足の位置、リズムについて注意点をそれぞれ簡潔に書いてください。

1 . 体 重 の 利 用

捏ね、練り、延しを行う場合、手足の腱

(ばね) や筋力と同時に体重をうまく利用

することが、作業効率をあげ腰や手首への

負担を軽減して作業疲れを防いでくれる。

2 . 台 の 高 さ

麺台に木鉢を乗せた際、立った姿勢で、

木鉢の底面が伸ばした指先と同じ高さにする。

また、延しの場合、麺台が中指の第一

と第二関節の間に来るようにする。

3 . 足 の 位 置

捏ねや延しのよう左右対称な動作を行

う場合、肩幅程度に均等に開く。



Q2. EQ(こころの能力、非認知能力)という概念があります。

あなたは、所属する団体の発展のため、あるいは自身のそば打ち活動のためにこの概念をどのように用いますか？

EQという概念は、IQ(知能指数)との対比で、子供の学力向上の調査の中から生まれたもので、心の知能指数ともいわれる。

このEQを成人に当てはめてみると、「社会で成功するための能力、トラブル解決・処理能力」といえる。EQが高いと、感情をコントロールしたり、挫折しても頑張り続けたりすることができる。

これを自身のこれまでのそば打ち活動に当てはめてみると、そば打ちはじめてから5～6年、現在そば打ち検定2段である。

一緒に始めた友人は、既に検定4段であり私の所属する会の指導者になっている。率先して休耕田を借りてそばを栽培し、会員が収穫したそばを無償で配ったりしている。まさにEQのたい人で活動に貢献している。私も友人を見習い、不得意な部部の練習を重ね戦術



Q3. 中国の古典である『論語』の言葉は、日本人が志を持ち、目標を実現するためのメンタル面として影響を与えました。昔から伝わるものを再度自分で学び直して、そこから何かをつかみとることの大切さが「温故知新」です。

A 微生高という人物を孔子は正直者と見ているか、正直者ではないと見ているか。

B. Aを選んだ理由を「温故知新」の精神を大切にして、解釈、説明を参考にしながら、自身の言葉や体験を活かして自由に説明しなさい。

A 孔子は微生高を正直者と見ている。

B 微生高は馬鹿が付くほどの正直者だと言

う。隣から酢を借りて与えることが、果た

して正直と言えるのか。孔子は「彼はわざ

わざ隣家まで行って酢をもらいその人に渡

したのだ。これこそ思いやりのある立派な

人物ではないか」と評価している。

以前、都内に遊びに行ったとき、外国人

に道を聞かれたことがある。私はその近所

が不案内なので、わからないと断ってしま

った。微生高の逸話にあてはめて見ると、

相手の立場に立って、誰かに聞いてでも外

国人を目的の場所まで案内してあげればよ

かったと反省している。正直が美德でなく

融通が利くことも時には大事である。

